

カトリック八尾教会ニュース



2023年12月

Tháng mười hai

【今月の予定】

ミサの時間

2日(土) ブロック合同待降節黙想会	14:00
3日(日) 待降節第1主日	7:00 10:00
8日(金) 無原罪の聖マリア	10:00
10日(日) 待降節第2主日	7:00 10:00
16日(土) 子ども会	14:00 16:00
17日(日) 待降節第3主日	7:00 10:00
ベトナム語のミサ	15:00
24日(日) 待降節第4主日	7:00 10:00
主の降誕(夜半)	17:00
25日(月) 祭主の降誕(日中)	10:00
31日(日) 聖家族	7:00 10:00

～布施教会にて(詳細は別途記載)～

<当教会堂名の記念日>

初聖体の勉強会
信仰講座



結婚記念の祝福

平日のミサ

木曜日	10時	7日、21日	<お休み: 14日、28日>
金曜日	10時	8日 無原罪の聖マリア	<当教会堂名の記念日>

かわちブロック合同待降節黙想会の案内

【日時】2023年12月 2日(土) 14:00～

【場所】カトリック布施教会

【指導司祭】和越 敏神父様 (コンベンツアル会)

【スケジュール】

14:00～ 黙想指導

15:30～ ミサ

ミサ後 ～ ゆるしの秘跡

フリーマーケット(ミニバザー)が開催されました!

11月12日(日)

今年(ことし)はコロナ禍中止されていた教会(かきょう)のバザー(ばさー)がフリーマーケットとして、四年ぶりに信徒(しんとう)の集い(あひだり)の場(ば)が再開(かいせい)されました。短時間(たんじかん)でしたが色々(いろいろ)な店舗(てんぽ)が出店(しゅつてん)し、楽しい交流(たのこうりゅう)の場(ば)となりました。

(行事委員会)

電子レンジへ、黒大豆12か13粒に少しの水を加えて茶碗に入れたのを4分くらいチンする。毎日、朝食と夕食の際、熱くなった茶碗を電子レンジから出し、煎った感じの豆をがりがり

と齧る。電子レンジのダイヤル、その回し加減が微妙にずれてしまうと、電子レンジのドアを開けると煙も出てしまう。続いて、焦げた匂いも。結構強烈なその匂いを最初に嗅いでは、ふとある思い出が蘇ってきた。もっと正確には、その匂いを何処かで嗅いだことがあり、その匂いとある人が深く結びついていることが順番に分かってきたのだ。

ブンジという、昔、韓国の伝統的な厨房があった。主に稲わらをくべてご飯を炊いたりする大きいかまどがあり、炊事などによる熱がオンドルを加熱し部屋の暖房にもなる構造になっていた。稲わらの他に、山から取ってきた松の木の落ちた小枝やその落ち葉もよい燃料であった。子どもの頃、夏休みや冬休みになると訪れていたお祖母さんち。その厨房の扉を開くとその匂いがしていた。何十年も続けて、毎朝と毎夜、アグエイに火をつけ竈で炊事をする。燃え上っていく稲わらや松の木の小枝や落ち葉（カルビ）から煙が、それに焦げた匂いを嗅ぎながらお祖母さんは何を考えていたのだろう。それほど良い夫ではなかったお祖父さんとの長い結婚生活は、当時、子どもの私から見ても幸せとは程遠かった。お祖母さんは、毎日、アグエイの前でどんな気持ちで、何を考えながら座っていたのだろう。一度付いては、そうは簡単に取れそうもない、電子レンジからの焦げ匂いを嗅ぐ度に、お祖母さんの悲しみを思い出す。その深くて根強い匂いは、長い間火に焦げた竈に付いていた黒い灰の匂いだが、実は、心を焦がしていたお祖母さんの匂いでもあった。お祖母さんの服から、体から、それに魂からもお祖母さんの死に方は実に悲劇そのものだった。その死で、夫とようやく別れたことが唯一の慰めだったかもしれない。それほど、今、自分にとって、お祖母さんの一生は哀れなものだと感じるのだ。

司祭として生きることは、人の心を読むことだと思う。その人の中に潜んでいる喘ぎを読み取り、それに名前を与えること！ それは神様とその人を繋ぐことなのだ。何故、あなたが神様の名を呼び、神様に会わなければならないのかを解いていく。その道のり、その旅は実に神秘に満ちている。

使徒パウロもそうだっただろう。頼り切っていたユダヤ人の世界と経験から、神様に委ねての新しい道を、彼は喜びと驚きをたっぷり味わいながら、と同時に数えきれない苦しみに見舞われながら歩んでいただろう。全てを燃えつくしていた彼の毎日の活動の後、独りで彼は何を感じ、何を考えていただろう。蝋燭の火を見ながら、揺れている火を、その陰にある闇を見つめていたのだろうか。

悲しい人生よ。

神様がいなければ、

そのすべてはむなし。

